

—彼女の衝動は、^{きもち}誰にも理解らない。^{わか}





—彼女の衝動は、誰にも理解らない。

きもち わか
—彼女の衝動は、誰にも理解らない。

■こんにちは、零です。

今回は一年ぶりに二次創作。

内容は実に4年ぶりのアルク×シオンですよ。

最初の発行した本がちょうど同じ内容だったんですが、

結構、アシから色々成長したというか、

突き抜けたというか、感慨深いものがあります。

メルブラも月姫ももう長い事経ちますが、

人気衰える気配が全く無いですね。

な訳で、今回は兼ねてより希望が多かったので

この組み合わせを再び描くことになりました。

ちなみに今回の本は、今まで発行したシオン本と、

ほんのちょっと繋がってたりします。

いや、微妙なんだけど(笑)。

今回も楽しんでもらえたら幸いです。

次回から、再びオリジナルですが、

機会があればシエル先輩本や、

白レン本(!?)も描きたいですね。



—あの、
出来ればですが…

うん？
用件？うん…

って言うか、
シオンって眼鏡かけるんだ？

用件があるのなら、
早く言って頂けると
嬉しいのですが…



でもさ、それ合わないネ？
シエルじゃ無いんだし、

キヤリ被るやう、
とらうか、あんなのよ、
おめってば、ホント

…出来れば、今すぐ
お引取り願えませんか？

うん、だって志貴ってば、有彦とさ
二人だけでどっか旅行行ってるんだもん
…んまあ、用は別に無くもないけど。

ハッキリ言って、私は
志貴の代わりでも
ありませんし、
ヒマでもないんで

大した用事でないなら、秋葉の手前
今夜は、とっとと帰ってくださるよ

にゃ、にゃにおう？
この愛くるしいアチシの
崇高なご指名を
無視するによから！

あゝあ、あの時交わした約束、
もう反故にしちゃうんだ、シオンは

う…
そ、それは…
単法かと…



——そう、あのとめどない淫夢の
 ループから救い出してくれたのは、
 意外な事に、真祖だった。



別に貴女の事、
 どうでもいいんだけど、
 タタリの術式と絡んで以上、
 『現実』に絡んでくるから
 放っておけないし

助けてあげる代わりに、
 代わりにあつちに戻ったら、
 私に付き合ってもらおうこと
 になるけど…



まあ、所謂
 「主従関係」ってやつね
 私、貴女に興味無くないし

——で、
 ぷんぷん

…へえ？
約束も守らない、ひとの話は無視して
拳句、勝手に物思いに感慨に耽ってる
なんて——
何を考えたたのかにや〜？ シオンは

な〜に考えてるか
あててあげようか〜？

クイッ！
クイッ！
クイッ！

クイッ！

クイッ！

は…はあ？
ええッ？

ちよ、い…いきなり、
な、なな、何しでかして
くれるんですか、
ア、あ、貴女は——

クイッ！

クイッ！

クイッ！

—彼女の衝動は、誰にも理解らない。



グッ
グッ
ちよ...やあ...ッ
何を...? 真祖ッ!

そ、そこはダメ...ッ!
やあ...そ、そこは...ッ!



グッ...
グッ



...あいらら、
やっぱねえ

まあ、あんな『世界』
彷徨ってるぐらいだから、
多分とは思ってたけどさ...

—彼女の衝動は、誰にも理解らない。

や…いやあ…

こ…こんな…
みないで…

レンが介したと言つても、
所詮、貴女の願望そのものが
ああいう『世界』作つてた訳で…

それって、つまり貴女のどうしようもない
『願望』…夢の残滓ってわけ
——もう気付いてるでしょ？

こつち側にアンタの『世界』連れ込む気？

ひ…ひとをよりにもよつて

変態

呼ばわりすなんて

わ、私が好きでこんな事、の…望んじや
いないし、どうにか出来るんなら、
とつくに自分で解決してますうッ

…意外と、
貴女って素直に自分の事、
認めないのね

わ、私は、あ…貴女が
言う様な恥知らずで、
卑猥な願望なんて…
こ…これっぽちだつて…

あま

…んツツ
んふっ…!?

ひよ…!?
ひ…ひむ…

んんツ…
んむ…ツツ!

ひあ…あ…ツ
やらあ…やへ…

ほ…ほんあ…
ひう…ひ…ら…ツツ

んふ…
んん…ツ…ん…

…ちよつとは落ち着いた?
別に貴女をいちめに来たんじゃ
なくて…ね?

私…のシオンだもの…
私なりに助けてあげたいなあ…て
—それともシオン、
私の事、嫌い?

あ…いえ
そ、そんな…あの…

べ、別に、嫌いとか…
むしろ大いに興味は…て、
その、あの…そういう事じゃ
なくて、あの…だから…

…!?
こ、こんな…イレギュラーな
展開…むしろ、こんな真祖…
初めて…こんな予測外の…

邪険にしないで…シオン
そんなに意固地に
ならないで…ね？

私、シオンの
そういうとこ、
結構好きよ？

ひあ…ツ
あ…やあ…ツ

ん…んツ
…そ、そんな…

そ、そういうこと…
あんツ…あツ…ん…
そ…そうでなくて…あ…ツ

こ…こんな…
こんなの…でなく…

え…？
あ、はい…

ね、ね？
手貸して、ね？
ホラ…こっちに…

—彼女の衝動は、誰にも理解らない。



あ、えへへ…ちゃんと
名前で呼べるじゃない
…ホラ、シオンは女の子だし…ね？
気持ち良くしてあげたくて…



なんか、爽…
コレ、すごくジンジンして温かくて
すこくモヤモヤする…



あ…え、えと…？
これは…あの…
真祖…
アルクエイド…？



んんん

あ…そうだ…
私…アルクエイド…
真祖として考えてなかった

ふやう…そんな
スル…い…んツ…

ホント…は…あ…
口寒…んふ…んツ？

や…んんツ
わた…し…

ふえ…ん…ふあ…
ち…ちがう…んツ…

だから…こんなイレギュラー
なんかに…でも…

ふあ…あ…

欲し…かった
あ…だけじゃ…？

シオンの
ことお…あ…やあ…
どうにかつて

あお…あお…
あお…あお…
あお…あお…
あお…あお…

すこ…可愛くて…
私…あ…こんなはずじゃ
ないのに…どうして…

ああ…やあ…そんな…
細くて綺麗な指で私の…
あ…触られて…擦られて…

あお…あお…
あお…あお…
あお…あお…
あお…あお…



あ…やあ…だ、だって、
あ…こ、ここのうの、
普通…経験できない…から…

えへ、
シオン、やっぱりエッチだよ
…おっぱいでして欲しいなんて
いきなり言うんだもん

あし…志貴の頭の中にあつた
パ…パイズリ…て…
こんな気持ちいいなんて…ッ

シオンの溜まった『欲望』
全部吐き出さないとそれ治らないし
シオンの精液…私、
ちゃんと飲んであげるから…ね？

ふや…いいよ…シオンが
気持ちよくなったら好きに出して…
我慢しちゃダメよ？

—彼女の衝動は、誰にも理解らない。

あ…そんな…舌先で
やあ…かわいい舌…



してくるんだ…
私の精液、飲んじやうんだ



—彼女の衝動は、誰にも理解らない。

独り占め…今だけ私…ッ
アルクエイドの口を、
独り占めしたい…ッッ!



ふぐらッ…ッッ!
んんッんんッッ!

いっぱい
の精液…私の精液…
あ…アルクエイドの口内に
射精しちゃうの…ッ！

ふや…あ…ッ
ああ…ん、
やああ…いっぱい…

わ、わたしのお…あ…ひやあッ
やあ…アルクウ…ッの、のんれえ…
せ、せいえき…ひい…れるからあッ！

んぐうッ…ッ…んんッ
ん…んぐ…んぶう…んん
…ッんんんッ…！

…げえッ…！
えうっ…げあ…ッ
えぐ…げえッ…

…ひ、酷い…
ひどいよお…ッ！

あ…ああ…
あ、あの…っ…い、その…

あ、だって…その…
—こめんなさい…

次…どうなるか
わかってるよね？

ホラ、シオン…
さっきの仕返し、
してあげるんだからッ

あ…ハイ…
その…出来れば…
初めてですから優しく…



ん…？あれえ？
シオン、これ…すごく
欲しがってるみたいだけど

え…う、嘘ッ？
やあ…ッ

あ…そこは…
あのあ…それは排泄する
ための穴で…生殖器を…

はあ

はあ

ぬちゅあ

ぬちゅあ…

そうなの？
シオン…
こっちがいいんだ？

ホラ…初めてなのに
ぬちゅあ入って…うッッ！

ぬちゅあ



ああッ…やあ…ッ！
 そ…そんな…ああ…いやあッ！

ち…違います…
 あ…やあ…違うの…おッ！



あは…
 あん…
 やつぱり、シオン…
 相当の変態さんね
 私が思ってるより遙かに



あは… さつき抜いたばかりの
 おチンチン…アナルに挿れたら
 またピンピンになっちゃってるよ…

わ、私…感じてる…
こ、肛門を弄くられて…

肛門を弄られて、あ…
性器…こんなにそそり立たせて…
こ、こんな恥ずかしい事…で、でも…
私、嬉しいんだ…なんて…

あ…ふや…
も…も…でちやうんだ？
ねえねえ？おちんちん、
シオン…又出したいの？

あ…アルクこそ…こ…肛門の中
び、びくびくの性器…おチンチン…
我慢できなくなってますよ？

あ…

あ…

あ…

あ…

あ…

あ…

あ…

あ…

あ…

あ…

あ…

あ…

あ…

あ…

あ…

じゃ…じゃあ、
一緒にイっちゃお…あは…ッ
し、シオンのお尻にい…いっばい…
腸の中に私の精液…あげる…ッ！

あぁッ…やはあ…やあ！
お、おち…おちんちん
一緒にし…いちゃ…あぁ！

いいよ…し、シオンのお…
お尻…ぬ…ぬの肛門…たっぷり
苛めてえ…精液いっばい
だしたげるね？

ああ…そうかあ
私…やつぱり…

やあ…あ、アルク…ッ
やあッ！
そ、そんなあッ！

やあ

やあ

やあ

びくびく…お、お尻のお
グリグリ…ニ…な…それちゃうと
お、おちんちん…
びくびくしちゃうッ！

やあ

—彼女の衝動は、誰にも理解らない。

あ、あああああッ
やはあ…ツ…ああ!
し…シオン…ツツツ!

やあああ…ツツ!
せーえき…ひい!
あふ、あふれちゃうツツツ!
びゆくびゆくれちゃうツツ

ふひ…えへえ…シオン…
いく時にね…肛門…きゅっ
って…私の締め付けるとだ…

あ…零れる…

あは…やああ…だ、だつてえ
肛門の…中でえ…射精されると
あったかくて…
くすぐったい中から…ああ…

肛門の奥から
アルクの精液が…

ああ…なんて最悪のパターン
夢だけだと思ってたのに…
私…やっぱり…こんなにも
変態なんだあ…

志貴の代替…ですか？
切ないですね…

ち、違うよッ、志貴は別なの！
ただ、ホラ…貴女の場合はその…
放っておいちゃいけないし…
それに…ホラ…

でも…これもひとつ
許容出来る答えとして…
もうちよつとだけ…

——しばらくの間は、
適当に処理続けなくちゃいけないけど、
いずれは消えるから安心していいよ

当分の間は、
私が面倒見てあげるから、ね？

極東の果てまで赴いて、
結局、私の本性がひん剥かれた
だけだなんて…最低…

うふふ…興味ありますね…
でも、私が自分の性癖に目覚めた
責任は取ってくださいね

ホラ…私と貴女は、
『主従関係』ですし…ね？

—彼女の衝動は、誰にも理解らない。



—彼女の衝動は、誰にも理解らない。

- 発行 0 SHIFT
- 発行者 零
- 発行日 2007年04月30日(初版)
- 印刷所 コムフレックス様
- URL <http://www.5f.biglobe.ne.jp/~zero-s>

0 SHIFT WORKS: 10TH EDITION
2007 SPRING

FOR ADULT ONLY